



学校だより

あーよかったな あなたがいて

第5号

平成30年9月12日
高岡市立戸出西部小学校

2学期スタート！ あっと驚くことがたくさんありそう

校長 要藤 明人

7月27日（金）に、6年生は立山登山で浄土山の頂上に到着しました。岩場を登ったり、高山植物を眺めたり、雷鳥に出会えたりと「あっと驚く」体験をしました。また、前日の夜には一ノ越から昇る満月を見ることができ、幻想的な体験をすることもできました。

8月19日（日）には、PTA親子清掃ボランティア活動があり、校舎内外ともきれいになりました。ご協力、ありがとうございました。

さて、2学期の始業式では、私の夏休みのあっと驚いたことを3つ話しました。そのうちの一つ、芥川龍之介の小説「芋粥」を読んであっと驚いたことを次に紹介します。



まず、子供たちに「芋粥」の写真を見せ、芋粥とは、山芋を甘く煮たお粥のことだと説明し、話をしました。



遠い昔、平安時代の話です。身分の低い侍が主人公。この侍の一番の楽しみは、1年に1度、働いている宮中の宴会で芋粥を食べること。しかし、いつも少ししかもらえず、お腹いっぱいこの芋粥を食べることがこの侍の夢でした。

ある時、この侍の夢を知った侍の上司が望みを叶えてやると言って、いくつもの大きな鍋にたくさんの芋粥を作ってくれました。侍の夢が叶ったのです。ところが、その侍は幸せだったかと言うと、実は逆だったのです。侍は、たくさんの芋粥の匂いがかいだけで、もう食べたくなくなり、いやいやながらお椀の芋粥を半分ほど食べて、もう食べられなくなりました。

侍は、こう思いました。「1年に1度、芋粥が少ししか食べられなかった時の方が幸せだったなあ」

この話をした後、「夢が叶わない時の方が、幸せに思う人がいるんだなあ、とあっと驚きました」と伝えました。もちろん、夢が叶った方が幸せだと思う人が多いと思います。しかし、人によって感じ方が違うということも知ってほしくてこの話をしました。2学期、西部っ子に「あっと驚くこと」がたくさんあればいいですね。

詩紹介⑤（秋は果物も魚もおいしい季節です）

魚はないうで
花開く花屋で
花は川崎の
花屋で
③九月五日
花川魚の日
関係



あてよむいはくパださい ②九月
らあなねぬいつンよまぬ い月
っーしはつてーツなにつまぬ四
てつどってなつーなてど 日
なころてるでまいっ・みち
くろるんさ いてるお
てかんだ



ふあこおごすくい ①八月
たわつふめかりも お月
りてそろんしくく谷な三
でてりでよてっつ川ら十
てて俊う一
ぷすぽぼへ 太た日
ぼぶ郎

ゆれ果秋 ⑥九月
くて物に 果月
らとしはな 物十二
し実ま何と 八木日
いつつもかも忘 重吉
てて



みう ⑤九月
んなののさかま十一
しさをさかかな日
らかななみん
ないもも

いそ丸んて内一重 ④九月
れくでい側枚なキ月
キがなねにずりはヤ十
ヤ っつ合たベ日
ベ っつ合たよしこ
ツ なく 捲き 葉をこ
な

富山グラウジーズバスケット教室開催 夢もつかめ！



9月11日(火)に、富山グラウジーズの大塚裕土選手と吉岡大輔コーチを招いて、富山グラウジーズバスケット教室を開催しました。6年生が参加し、基礎的なトレーニングやドリブル練習・ドリブル競争の後、選抜の子供たちとグラウジーズ選手2名とのミニゲームを行いました。

大塚選手の的確な指導で、子供たちの動きも機敏になってきました。また、ミニゲームでの大塚選手のボールさばきの巧みさ、素速い動きに子供たちは目を丸くしていました。これが、プロの動きなのですね(もちろん手加減しての動きだったとは思いますが…)。

その後、大塚選手から「夢」について語っていただきました。まず、子供たちに、「夢のある人？」と尋ねられ、数名の子供たちが答えた後、次のような内容です。

夢を叶えるために大事なことは、思っていること、こうなりたいことを発信できる人になることです。発信することで協力してもらえたりついてきてくれる人に支えてもらうことができます。夢は100%叶うわけではありませんが、夢をつかむチャンスは、平等にあります。恥ずかしながら自分の夢を発信していきましょう。

最高学年の6年生にふさわしい話でした。どんどん夢を発信できる子供たちが増えることを、そして、今年の富山グラウジーズの活躍を願っています。

子供の反抗にどのように対応しますか？

反抗期には、3、4歳の児童期に現れる第一次反抗期と、13、14歳の青年期前期に現れる第二次反抗期があると言われています。とは言うものの反抗期ではなくても子供の反抗が見られる時があります。さて、そのような時の対応について、自然療法家の東城百合子氏は自分の子供を例に次のように述べています。もしもの時の参考になれば幸いです。

次男は猫舌なので、朝のみそ汁や炊きたてのご飯が熱いことにすらいらだっていました。「何だよ、こんな熱いの。食えるかよ」と怒るのです。私は、「また始まった」と笑って見ていました。「何がおかしいんだよ」と毒づきますが、知らん顔して放っておくと、しぶしぶうちわであおいで冷まして食べたり飲んだりしていました。こういう時は、静かに見守るのが一番です。それをいちいち「何を言ってるの」と応戦したら火に油を注ぐだけです。「あら、そう」と、笑って聞き流してやるのです。大人になるための変化の曲がり角、と受け止めて慌てず騒がず、待つてあげる心のゆとりをもちましょう。



奇跡を起こそう 西部っ子③ ちょっとした気配りが登校時にあります



9月10日(月)は雨。強い雨の中での登校となりました。朝は、集団登校です。上級生が前や後ろで下級生の面倒をみています。さて、学校近くの交差点を見ると少人数の登校班がやってきました。上級生が交差点を先に渡りました。渡り終わると、ちらっと後ろを振り返り、下級生がいるのを確かめていました。ちゃんとしているのが分かったら、向きを変え学校に向かって行きました。

そのさりげない仕草は、これまでの集団登校で、この子供が身に付けたのでしょうか。きっと、下級生の時に、同じように上級生から見守ってもらっていたからですね。この優しい仕草は『西部っ子登校仕草』と言えそうです。